

# 救命救急から慢性期まであらゆる医療 ニーズに対応するハイブリッド型病院



毎日の健康から救命救急まで。

ひとりでも多くの方に安心をお届けする。

私たちは、地域とともに

みなさまの健康をサポートします。

まいにちから、  
まんいちまで。

札幌市の中心部からほど近い山の手地区にあり「人と自然の健康と調和を大切にする医療を実践します」を基本理念とする。災害拠点病院の指定を受け、東日本大震災ではDMAT(急性期災害医療支援チーム)を派遣し、心のケアチームを含めた5チームが医療支援を行った。臨床研究部では難病や希少疾患の先進的研究と治験の推進を図っている



①2013年12月にヘリポートが設置され、より広範囲な患者の受け入れが可能に

②札幌市救急隊からの搬送件数は年間2000件を超え、約3分の1は他施設で受け入れ困難な重症例(3次救急)となっている

「本当に必要とされる病院とは、いったいどんな病院だろうか」この命題を常に自問自答し、地域と歩むことをスローガンに掲げているのが国立病院機構北海道医療センターである。まいにちの健康からまんいちの救命救急まで、一人でも多くの人に安心を届けること、そして地域住民の健康をあらゆる角度からサポートすることを使命としている。

2013年8月に地域医療支援病院として道の承認を受けたが、地域のかかりつけ医と一体となった診療体制を組むこと、さらに市民向けの健康講座の開催にも力を入れる。14年度には「認知症を知りましょう」(神経内科)、「そうなる前に知っておこう!」(安心して地域・在宅で暮らすための介護・福祉の支援)、「医療ソーシャルワーカー」(糖尿病を防ぐために)、「(糖尿病内科)」、「(骨粗しょう症の正しい知識) (整形外科)などの講

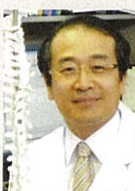
座を開催。毎回大勢の来場者があり、直に話を伝える大切さを実感しているという。

大学との人事交流にも積極的に、高度先進医療を地元で受ける体制作りが進んでいる。整形外科は、前北大脊椎脊髄先端医学講座特任教授の伊東学医師を脊椎脊髄センター長として迎え、困難な脊椎脊髄疾患に対する先進医療を提供。骨粗しょう症性脊椎骨折、頸椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症などの高齢者に多い疾患や、特発性側弯症、先天性側弯症などの小児の脊柱変形の専門的治療も開始した。医療の充実だけではなく心の安らぎが真の健康を醸成するという観点から、市内のさまざまな団体による院内コンサートも開催。合唱、ピアノトリオ、マリンバ、フインランドの民族楽器であるカンテレほか、さらに職員による「北海道医療センター室内合奏団」も四季折々に登場し毎回好評である。



統括診療部長  
臨床教育研修部長  
長尾 雅悦氏

札幌医科大学卒業。日本小児科学会専門医。臨床遺伝専門医。医学博士



脊椎脊髄センター長  
整形外科医長  
伊東 学氏

北海道大学医学部卒業。日本整形外科学会専門医。日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医。医学博士

独立行政法人 国立病院機構

## 北海道医療センター

救命救急センター併設

<http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc>

札幌市西区山の手5条7丁目-1

☎011-611-8111

内科・糖尿病/脂質代謝内科・腎臓内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・小児科・精神科・皮膚科・形成外科・眼科・耳鼻いんこう科・アレルギー科・リウマチ科・放射線科・外科・心臓血管外科・小児外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・婦人科・リハビリテーション科・麻酔科・救急科

診療受付時間/  
月～金 8:30～11:00 13:00～15:00 (一部の科のみ)\*内科の午後は完全予約制。各科・曜日により異なるため事前にご確認ください  
休日/土曜・日曜・祝日  
最寄りアクセス/  
JR北海道バス北海道医療センター前停留所下車、地下鉄東西線琴似駅から徒歩約12分